

近事研

# 近畿 ねっとわーく

第66号

2018.3.20

～編集・発行～

近畿公立小中学校事務職員研究会

会長 藤井 明 美

所在地 神戸市立横尾小学校

神戸市須磨区横尾5-3

078-743-4511

<http://www.kinjiken.jp/>

## 平成29年度 近事研学校事務セミナー報告

「会議力アップで働き方改革！」

業務改善を推進するホワイトボード・ミーティング®セミナー

講師 株式会社ひとまち代表取締役 ちよん せいこ様



平成30年2月8日、大阪府教育会館（たかつガーデン）にて、学校事務セミナーを開催しました。講師に、株式会社ひとまち代表取締役 ちよん せいこ様をお招きして、「会議力アップで働き方改革！業務改善を推進するホワイトボード・ミーティング®セミナー」の演題でご講演いただきました。

ちよん先生により開発された「ホワイトボード・ミーティング®」は、会議室のホワイトボードを活用して進める話し合いの技術で、ファシリテーターと呼ばれる進行役が参加者の意見をホワイトボードに書くことにより何を話し合っているかが明確になり、短い時間で効率的、効果的に会議が進められます。また、書くことでお互いを承認し合うので、良好なコミュニケーションが育まれます。



ファシリテーターは上手に話を聞き合う関係性を作り、合意形成や課題解決の場づくりを進めます。そのため、どのような意見に対しても中立で公平で対等な役割であることが求められます。このように聞くと難しそうに思えますが、ちよん先生によるとファシリテーションは技術なので、練習すれば誰でも上達してファシリテーターになれるそうです。



「ホワイトボード・ミーティング®」では、ファシリテーターが参加者の意見を要約せずにすべて書いて承認し、オープンクエスチョンという質問の技法で情報共有を深め、「発散→収束→活用」のプロセスを作って意見を構造化し、具体的な行動や活動計画を決めます。

セミナーでは、少人数のグループになって、ミニホワイトボードと黒・赤・青の三色のペンを使い、「ホワイトボード・ミーティング®」を体験してみました。ファシリテーター役はまず、黒のペンで出された意見をすべて書き出し、赤のペンで方向性を決めます。最後に青のペンで結論をまとめるというプロセスで話し合いを進めます。確かにホワイトボードで意見を可視化すると、論点をはっきりして、目指すべきゴールがクリアになるようでした。

学校の多忙化が問題となり業務改善が求められる中、短時間で効率的に会議を進める手段として、早速取り入れてみたいと思いました。

(文責 毛利 美穂)



## 調査研究部中間報告

第8期調査研究部では、第7期の『チームで連携(つなぐ) 未来への「わ」～進化・深化・真価～』と同じ研究テーマを掲げ、引き続き「連携」について研究に取り組んでいます。

第7期で実施した連携についてのアンケートからは、それぞれの地域やおかれている状況によって「連携」についてのとらえ方が大きく違うことや、連携に関わるにはまず事務職員自身の意識改革が最も重要だと感じている会員が多いことが分かりました。そこで、今期の部会では「校内での連携」「学校間連携」「地域連携」について熟議や研修を重ね、部員それぞれが目標をきめて学校事務職員の強味を生かした連携の実践につなげていくための方策を探っています。8月のサマーフォーラムでは、部員の実践報告を交え、会員の皆様に報告をする予定です。